

ビーチクリーンアップモニタリング調査結果

日 時：令和 4 年（2022 年）11 月 20 日（日）8:40～14:00

場 所：丸亀市本島（調査場所①：笠島近くの海岸 調査場所②：本島泊海岸（本島泊海水浴場）

参加者数：15 名

11 月 20 日（日曜日）15 名の方に参加いただき、本島でビーチクリーンアップモニタリング調査を実施しました。参加者に聞いてみると、ほとんどの方が本島に来るのは初めてとのことでした。

島内の 2 か所の海岸で、世界共通の International Coastal Cleanup(ICC)手法（調査時間 20 分間）と水辺の散乱ゴミの指標評価手法を用いて調査と海岸漂着ごみの回収を行いました。

調査方法の説明は、海ごみリーダー養成講座（11 月 5 日開催）の修了生が務め、講座の中で学んだ調査時の留意点などについて説明した後、3 グループに分かれてごみ拾い調査を行いました。

1 か所目の笠島近くの海岸は、多くのごみが漂着しているのに参加者は驚きながら調査をスタートしました。破片以外では、飲料用プラボトル（ペットボトル）やその他プラスチックボトル、食品容器（プラスチック）が多く漂着しており、あっという間に袋がいっぱいになっていました。

2 か所目の泊海岸も同様の方法で調査を行いました。こちらの海岸は定期的にクリーンアップが行われている場所であるため、大きなごみは少なかったものの回収されずに残って破片化したごみや草の中に入り込んで見つけにくいごみなどがみられました。

参加者からは、「クリーンアップされている場所もあったが、ごみが多かった」「ペットボトルや生活関係のごみが多いのが分かった」「劣化が進んでいるものが多い。細かくなっているものが多く、見つけづらい」「遠めだとごみが無いように見えるが、よく見るとごみがある」などの意見がありました。

今回のモニタリング調査を通して、陸域から多くのごみが出てきていること、細かく破片化してしまうと回収するのが困難になることなどの気づきがあったようです。今後、私たちの生活を見直し、海ごみの発生を抑制する活動につながればと思います。

また、海ごみリーダー養成講座の修了生には、既に海ごみを減らす活動に携わっている人や学校の先生などもいて、今後の活動の広がりが期待されます。

各海岸における ICC 調査結果

調査場所	ICC 調査結果（個数が多かった 3 品目） t =20 分間	回収量
笠島近くの海岸	① 飲料用プラボトル（ペットボトル）141 個 ② プラスチックシートや袋の破片 110 個 ③ ガラスや陶器の破片 75 個	9 袋（45L のごみ袋） 28.2kg
本島泊海岸	① 発泡スチロール破片 108 個 ② プラスチックシートや袋の破片 85 個 ③ 硬質プラスチック破片 60 個	4 袋（45L のごみ袋） 14.7kg

【International Coastal Cleanup(ICC)】

世界共通の方法で、回収したごみを 45 品目に分類してその個数をカウントします。どのような品目が多いのかを把握し、発生抑制対策にも役立てられています。

【水辺の散乱ゴミの指標評価手法】

海岸を見てごみの量をだまかに調べる方法です。クリーンアップを実施する前や海岸や地域にお

けるごみの量を把握したりするときに使われている方法です。

【活動写真】

調査場所① 笠島近くの海岸の様子



ICC 調査の方法を説明



海ごみリーダー養成講座修了生と一緒に調べる



海岸の様子



集合写真

調査場所② 本島泊海岸の様子



海ごみリーダー養成講座修了生による説明



海岸の様子



調査結果、気づいたことを共有



海ごみについてのミニ講座